

キレイのさと美郷

環境保全 体験BOOK



四季によって美郷を彩る梅林。
実は、縁の下の力持ち!?



透き通る美しさ。
ホタルが棲む
美郷の川。

森と里と川とホタル、
人と暮らしと自然とホタル。
それはみんな、
つながっています。

こつこつと積み重ねる、
美郷の歴史と石積みと。



豊かな森が美郷をつくる。
ホタルを育む一滴は、
森から始まります。



美郷

キレイのさと
misato

梅川



美郷の自然、一年間の楽しみ。

石積み



楽しみながら環境を守る、
美郷ならではの体験。

5月下旬から約1ヶ月の間、
私たちが優しい光で迎えてくれる
美郷のホタル。

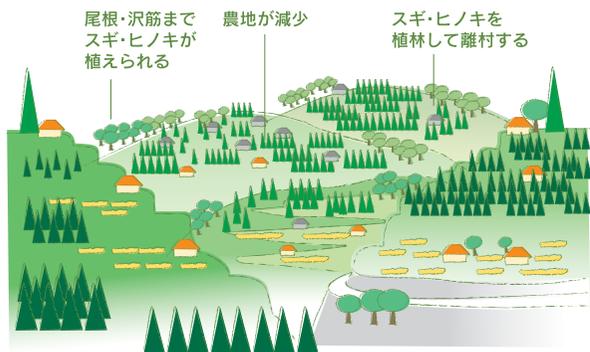
美郷は、日本で唯一、地域全体が
ホタルの発生地として国の
天然記念物に指定されています。
ホタルが飛ぶ風景は、
美郷を象徴する風景です。
この風景を残していくためには、
ホタルが棲める環境を
守らなくてはなりません。

それは、美郷の暮らしと一体です。
環境全体体験BOOKでは、
ホタルが棲める環境づくりに関
欠かせない「森」「石積み」「梅林」「川」の
4つの保全について、
今と昔、暮らしてきた人たちの思い、
楽しみながら環境を守る
体験プログラムを紹介しています。

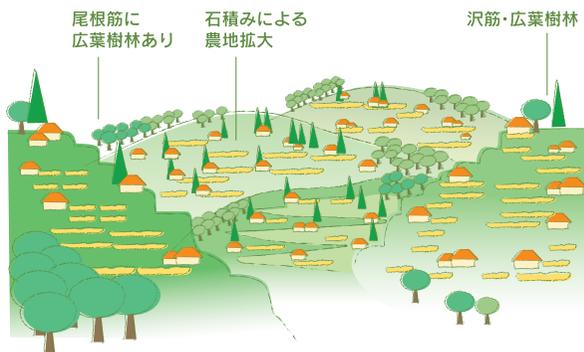
環境全体体験・イベントスケジュール

<環境全体体験に関するお問合せ> 美郷商工会 TEL.0883-43-2505

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
森	保全体験	●									●	
	体験イベント				新緑 エコツアー	ツノ虫 捕り						紅葉 エコツアー
石積み	保全体験			●								
	体験イベント			シヤクワ まつり	茶摘み				そばの 種蒔き		そば刈り	そばうち
梅林	保全体験											●
	体験イベント		梅の花 まつり		梅の実 収穫体験						梅酒 まつり	梅の枝 剪定作業
川	保全体験	●									●	
	体験イベント				ホタル クリーニング アップ	ほたる まつり	川遊び				川歩き クリーニング アップ	



1980年頃の美郷



1920年頃の美郷



和泉孝行さん

ツノ虫(クワガタ)捕りなど、山の遊びにも詳しい若手の林業家で、害獣駆除にも従事している、和泉孝行さんに話を聞きました。

「森の中の環境の変化は？
鹿やイノシシが里に出てきて、田畑の農作物が食べられています。しかしこれは、実のなる木を伐採し、鹿やイノシシの天敵を乱獲するなど、人が森の環境を変えてきた影響が今になって出てきているとも言えます。森に広葉樹を植えるなどし、動物が再び森で棲める環境が必要ですが、その環境をつくり、維持することにも時間と手間がかかります。人の手によって失った森の環境は、人の手によって戻すしかないのです。」



森

「動物も棲めない森は森と言えない」

豊かな森が美郷をつくる。
ホタルを育む一滴は、
森から始まります。

森林率 82%

吉野川から国道193号を南へ。山川トンネルを抜けて美郷に入ると、辺り一面に森の風景が広がります。芽吹き、新緑、夏木立、紅葉、落葉など季節によって衣替えする木々の葉が見せる芸術は、美郷を訪れる際の楽しみの一つです。また、夏にはホタルが舞い、子ども達の遊び場となる川。川を流れる清らかな水は、美郷の面積の約82%を占める森が出発点です。

森の役割

森は、自然の力で育った「天然林」と人が手を加えて育てた「人工林」に分けられます。人工林は人が手入れをしなければ豊かに育ちません。豊かな森の土は、ホタルが育つ

川に、栄養が豊富でキレイな水を送ります。また、スポンジのように水を蓄える力があるので、土砂の流出を防ぎ、ホタルの幼虫と餌のカワナが育つ環境を守ります。

森に棲む動物にとつては家そのもの。どんぐりなどの木の実は餌となります。最近では、二酸化炭素を吸収し、貯える力も注目されています。森は、美郷で暮らす人々や森で生きる動物に恵みをもたらす、美郷の自然環境の豊かさの象徴であるホタルを育ててきました。

しかし、森の状況も、時代とともに変化しています。

美郷の原風景

1920年頃の美郷。約7千人が住み、地域が活気を帯びていた時代です。天然林が

森を育てる仕事 森を育てる人



和泉隆啓さん

人の手入れがいらぬ森に育てるには100年かかると言われています。

森を育て、森を活かす仕事は林業です。森は、林業家の手によって守られています。

林業を営む有限会社「希林」の和泉隆啓さんに話を聞きました。

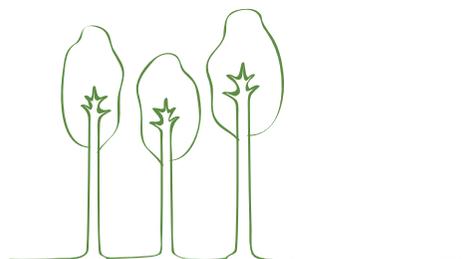
「どうして、山が荒れているのですか？」

戦後、木材の需要が高まったことから、一気に植林が行われましたが、その頃植えた木が伐採する時期を迎えています。ところが、現在は木材の需要が減り、木の経済的な価値が下がっているため、山の管理をする山の持ち主が減りました。木を切っても売れず、赤字になるからです。

美郷には約2600ヘクタールの人工林がありますが、美郷の林業家が1年間に作業できる面積はわずか約40ヘクタール。人手が足りないことも課題です。

「ホタルに優しい森づくりをするには？」

森は川を介して海と繋がっています。海は生命を育みますが、森は海の親です。特效薬はありませんが、森のことを、ここに暮らす人だけでなく、下流域の人も考えていければと思います。



木の温もりを感じる 森の楽しみ

【森で楽しむ】

美郷の森づくりに参加するプログラムとして、専門家に教わる枝打ち・間伐体験ができます。おいしい空気を吸い、木のぬくもりに触れる時間を過ごした後に、森で食べる食事は格別です。



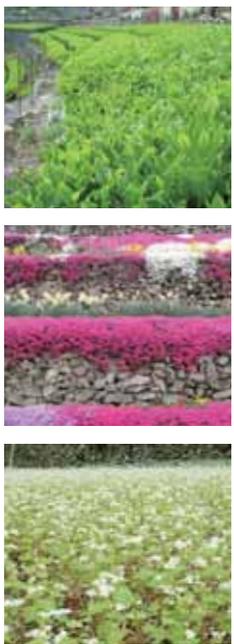
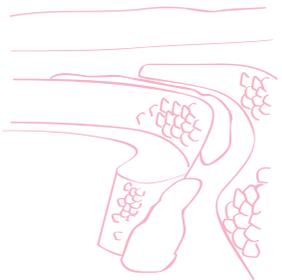
【木を楽しむ】

山の木を使って、簡単なものづくりもできます。クロモジは、和菓子で使われる高級爪楊枝の材料となる木。とても上品でいい香りがします。



有限会社希林は、木のことから何でもおまかせ。オーダーメイド家具も製作してくれます。丁寧な職人仕事です。

こつこつと積み重ねる、美郷の歴史と石積みと。



石積み

美郷と石積み

豊かな自然が数多く見られる美郷ですが、その地勢は厳しく、平坦な土地に恵まれていません。そのため、美郷では急峻な山の斜面を段々畑や宅地として使うために石積みが発達しました。美郷を訪れる人が感動する石積み。実は美郷の人たちの生活そのものなのです。

「大神高開の石積み」を守

る百姓・石工の高開文雄さん
は言います。
「わしは農家でない。百姓な
んじや。」

農家と百姓の違い、なんだか
わかりますか？高開さん
いわく、農家と百姓の違いは、
それを営む形や規模の違い
だそう。水田だけを耕作
したり、何かに特化して大規
模に耕作している人は農家。
それに対して、農作物だけに
限らず、生きていくために作



「石と話をしながら積む」

石を積んで50年以上の高開さん。石にも表情
があり、適材適所があるため、その“顔”を見て
どこにどのように石を置いていくかを決め、
石を積んでいます。

っているのが百姓。“様々な
農作物”つまり、百品もの農
作物を作っているから百姓
と言うそうです。ちなみに高
開さんのお宅では、石積み
で作った畑で、菜の花、お茶、
ナス、トマト、ミョウガ、ソバ、
大根、ゆずなど、様々な野菜
や果物を育てています。百姓
と農家の違いから見えてく
る暮らしと石積み。石積みは
生活を営むための先人の知
恵であり、石積みのある風景
には、そこで暮らす人々の生
活があるのです。

また石積みは、耕作地や山の
土砂の流出を防ぎ、石積み
に植えられているシバザクラは表
面の土砂の流出を防いでいま
す。そのように土砂の流出を防
ぐことが、川田川の水質を保ち、
ホタルの住む環境を守ること
につながっています。

石積みの今と昔

高開さんは写真のような様々
な道具を使って石を積みませ
すが、このような道具がなかつ
た数百年前、江戸時代から石
積みは築かれていたそうです。
石を積む作業は全て手作

業で行われ、崩れたら修復が
必要です。石積みのある風景
は、かつては山間部の農村で
はごく普通の風景でした。に
ほんの里100選」に選ばれ
ている高開の石積みも、日本
の農村を代表する伝統的な
風景です。

しかし、石を積む作業が大
掛かり（1箇所につき10から
30人の人手が必要）なことや、
施工・手入れが簡単なコンク



リート壁使
用の増加に
より石を積
む職人が減
少したこと
に加え、地
域住民の高
齢化や、都市

への人口流出による過疎化
などにより、現在ではその保
全が難しくなっています。現
在の美郷で石積みの技術を
守り、伝承しているのは、高
開文雄さん、ただ一人です。

石積みを守る 取り組み

今、美郷では、石積みを保



全するために、様々な活動に
取り組んでいます。これまで、
石積み修復のお手伝いと美
郷の地域資源（美郷流マクロ
ビオティック料理や温泉など）
を組み合わせた体験プログラ
ムを実施し、一般の方、大
学生、子どもなど地域外の
人にも参加してもらい保全活
動に取り組んできました。暮

らしの中での石積みの役割
を学び、石積み体験を通して
石積みの保全に協力する
というプログラムです。
子どもを対象としたプロ
グラムでは、美郷の生活・文
化・歴史を学び、石積みの保全に
興味・関心を持ってもらうこ
とをねらいとしています。

石積み作業の前には、美郷
について思い浮かぶことや、
高開さんの石積みや暮らし
について勉強し、ミニチュア
の石積みを使って、石積みの
仕組みや石の積み方につ
いて学習します。また、石積み
の修復作業の後には、石積み
を体験して知ったこと・考えた
ことをもとに、高開さんへ質



問し、石積みが果たす役割や、
石積みがあるホタルの住める環
境を守ること、どのよう
に役立っているかといったこ
とを勉強します。美郷では、
子どもたちが、将来、ホタル
が住める美郷の自然の素晴
らしさを思い出し、美郷の環
境保全活動に携わってくれ
ることを願っています。

石の積み方 「一ぐり、二石、三に積み」

1 修復する石積
みを崩す。

2 土、“ぐり(石)”
と呼ばれる拳く
らいの大きさの
石、“積み石”と
呼ばれる中くら
いの石、“根石”
と呼ばれる大き
な石に分ける。

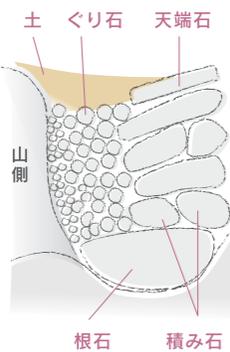
3 “根石”を土台に積み石を置き、その奥
の隙間にぐり石を詰める。

4 積み石は横向きばかりなど、同じ方向に
積んでいると、安定が悪いので、石の形や
積み具合を見ながら向きを変えて積む。

5 “ぐり(石)”をしっかりとめることで、
水分を含みやすい土砂が積み石の間に
入ることを防ぎ、石の斜面に接してい
る側を下に下げること、石積みが安
定する。

6 積み石の上に天端石を積む。あぜ道や畑
を整地する。

このような一連の作業の中で、一番重
要な役割を果たすのが“ぐり(石)”。そ
して、次に大切なのが“積み石”。最後は、
石を積む人の技術、すなわち“積み”。高
開さんの石積みの極意である。





徳島県の梅生産者で2番目にエコファーマーに認定され、美郷における梅の伝承者ともいへき梅農家の天野栄さんは次のように言います。「梅林は地域活性化の核。廃れさせてはいけません。」

耕作放棄地を活かした環境保全型観光の実施などにも取り組んでいます。

そんな梅農家の方の熱い思いもあり、美郷は、梅酒特区認定に向けての取り組みなどにより(平成20年7月、全国初の梅酒特区に認定)、交流人口の増加、地域経済の活性化、梅酒の生産により耕作放棄地の梅林の再活用の促進などを図ってきました。加えて、梅の木のオーナーになり、収穫を楽しんでもらったり、梅の収穫を体験プログラムとして実施したりしています。その他には、

耕作放棄地を活かした環境保全型観光の実施などにも取り組んでいます。美郷の自然環境を守るお



(左から)梅の剪定インストラクターの川村順一さん、楢山英一さん、美郷宝探し探検隊の棟本誠二隊長。美郷を、そして美郷を訪れてくれる人を愛してやまない三人です。

梅林を守る取り組み

ことよって(耕作放棄地の梅林を減らすことよって)、土砂の流出が減ります。また、農薬を抑えた農法による栽培を行うことにより、土壌から川へ染み出る農薬の量が減ります。このようなことが、水質をはじめとする川田川の環境を守り、美郷の自然環境の保護につながっているのです。



「(梅の枝を)剪定して綺麗な花が咲く。その花をいろんな方に見てもらい喜んでもらえる。それが喜び。また、鶯の鳴く梅林で作業ができることも喜び。」梅を育てる魅力を語る梅農家の天野さん。

梅林を守るためのプログラム

現在美郷では、単発的な農作業体験型プログラムによる環境保全ではなく、通年、つまり一年のうち何回か美郷に来ていただき、四季折々の梅の農作業のお手伝いを通して、美郷の自然環境を守ることに協力してもらおうと組みづくりに取り組んでいます。例えば、12月は梅林の耕作放棄地を耕すお手伝いの一環として、“ずばい”の剪定作業をし、その後は、美郷の魅力(食べ物など)や楽しい体験プログラムを満喫してもらいます。

手伝いをする環境保全のプログラムを通して、四季によつて違う美郷のよさや楽しさも発見してもらいたい。一回きりではなく四季を通して農作業を体験してもらおうと、長い目で見た楽しさ(梅のお花見・梅の収穫・収穫した梅を漬ける・梅干しや梅酒)も味わって欲しい。そして美郷のファンになつてもらいたい。私たちはそんな思いで美郷の環境保全活動に取り組んでいます。



梅林

美郷と梅

美郷は“梅のさと”と呼ばれるくらい梅の栽培が盛んです。春のはじめには梅の花を染しむ。梅の花見ウォーク。夏の足音がする頃には梅の実収穫体験、秋も深まった頃には美郷の梅酒の飲み比べができる梅酒まつりと、梅を主役に一年を語る事ができます。

地区のあちらこちらに梅林があり、昔から各農家に梅の木があり、その実を収穫し、各家庭で保存食として、梅干し、梅酒、梅エキスなどを作っていました。今でも、梅を使った特産品や加工品を数多く作っています。

そんな美郷の梅ですが、70年代後半が生産量のピークでした。99年には、原因不明の立ち枯れや衰弱被害、安価

四季によつて美郷を彩る梅林。実は、縁の下の力持ち!?



な外国産の梅の輸入増加による価格の低迷、追い討ちをかけるように高齢化や後継者不足といった問題が出てきました。

梅林を守る「ずばい」

そのような問題により、耕作放棄地が増加しています。しかし、なぜ、梅林の耕作放棄地が問題となるのでしょうか?それは、梅林の保全が美郷の自然環境を守ることにつながっているからなのです。

耕作放棄地の梅林を耕す

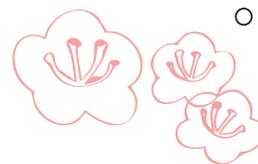
●2月頃

梅の花は、1番に咲く春を告げる花です。毎年、この梅のお花見を楽しみに多くの観光客が美郷を訪れます。



梅の農家の一年「美郷の一年は梅に始まり、梅に終わる」

2月には梅の花が開花を迎え、12月には翌年のきれいな花のために梅の枝を剪定します。梅で始まり梅で終わる美郷の一年です。



●新芽が出る頃

病虫、特に黒星病の予防、そして葉に付くアブラムシへの注意が必要です。



●6月

梅の実丸まると膨らんできます。初夏は梅の収穫時期となります。梅もぎが終ると、下草を刈り、お礼肥という肥料をやります。「たくさん実をつけてくれてありがとう、来年もよろしく」という感謝の気持ちを込めて梅の木に肥料をやります。

●7月

梅干しを漬け込みます。梅農家それぞれ味は少しずつ異なりますが、美郷の梅干しの特徴は、赤紫蘇で出す鮮やかな赤色です。



●9月

秋になるとカイガラムシの予防をします。病虫の予防は適時にすることで効果を発揮するそうです。下草を刈り始め、梅の木の根元に敷き、梅の木が栄養を蓄えられるようにしておきます。秋は梅の木が栄養を蓄える時期なのです。



●11月半ば頃

葉が落ちると、勢いよく上に伸びている枝“ずばい”の剪定作業が始まります。“ずばい”を剪定することにより、枝を横に伸ばし、梅の実を収穫しやすくするためです。冬を越すと再び綺麗な梅の花が咲く季節となります。

透き通る美しさ。 ホタルが棲む美郷の川。

川田川・東山谷川

美郷の集落は、川田川と東山谷川の流れに沿うように点在し、人々は川の恵みを受けて暮らしてきました。

川田川は、奥野々山(159m)を源に、吉野川に注ぎます。源流付近には、落差約30mの「母衣暮露滝」(ぼろぼろたき)があり、秋が深まる頃には紅葉の名所となります。

ホタルが棲む川

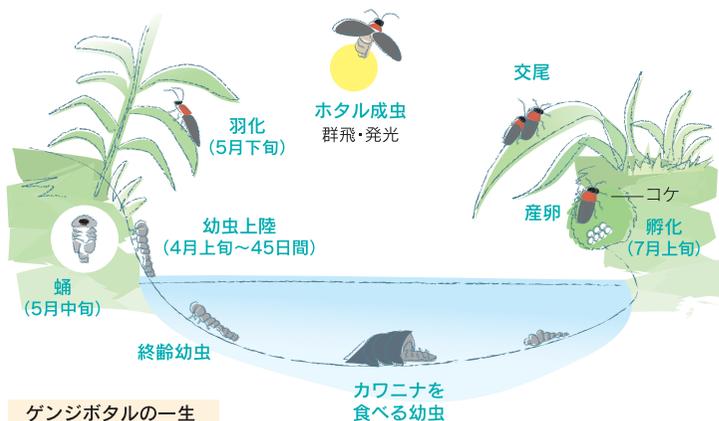
川は生命を育んでいます。美郷を代表する生物はホタル。川田川の downstream では、5月下旬からの約1ヶ月の間ホタルが乱舞します。このような場所は珍しく、その幻想的な光景を観に、毎年多くの人が訪れます。今もなお、ホタルが棲む川として守られています。

ることは、地域の誇りです。

変化した川の環境

川は蛇行しながら流れ、瀬と淵が繰り返ります。川の水は瀬と淵を繰り返すことで、キレイになる仕組みがあります。しかし、護岸工事や上流に作られた砂防ダムの影響で砂利が蓄積し、昔に比べ瀬と淵が減ってしまいました。また、コンクリートの護岸は、自然の川べりよりも、ホタルの棲み家が限られてしまいます。

このような、川の変化から、昔と比べて、ホタルの数が減りつつあるのも事実です。



ホタルは「美郷の環境のものごと」

美郷には光が強いゲンジボタル、ヘイケボタルなど、5種類の生息が確認されています。カワニナはホタルの幼虫の餌で、流れが少ないよどみや岩の間に生息しています。カワニナの餌はコケです。また、落ち葉から滲み出る養分を必要とします。

ホタルが川で育つためには、川の水質が良いだけでなく、周囲に植えられている木の種類、土の岸辺があることなど、川辺と陸の環境が大事なのです。美郷の川にはその環境が残っています。

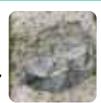
川を守るために

川は一見キレイに見えますが、一歩足を踏み入れてみると、意外とごみが多いことに気づきます。美郷はたまたまの開催が近づいてくると、美郷ホタルクリーンアップ活動が行われます。



川は楽しい！ 達人と川を歩こう

1 蛇紋岩
鉄分が多く含まれているので見た目以上に重い！



3 夫婦岩
昔から2つ揃って行っています。



2 カワニナ
近くにはホタルの幼虫もいるはず。観察してみよう。



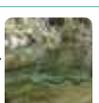
4 昔の石積み
コンクリートの前は全部石積みの岸辺でした。



5 サワクルマミ
夏にはクルマミがコロコロ。石で割って食べてみよう。



6 油石
ツルツル滑って、石の上には立ってない。挑戦者求ム！ウナギの住処。



7 ナルコスゲ
岩の間から馬の尻尾のように生えています。



8 透明度 抜群の淵
水色のキレイさがよくわかるとっておきの休憩場所。



美郷の冬は 川歩きに最適！

入門編は、川俣の大正橋から吉野川市ふるさとセンターまで、歩いて約1時間30分(約1km)のコース。時期は、一年で一番水がキレイに輝く冬がおススメです。美郷の暮らしや自然の話、ホタルの生態をガイドさんに教えてもらいながら、のんびり歩きましょう。

※ほたる保護のため、クリーンアップしながら歩きます。



佐藤正勝さんは川田川をよく知る川の達人の1人です。

川遊び

夏になると、川には子どもたちのしゃぐ音が響きます。淵は、潜ったり、魚をとったり、子どもたちの絶好の遊び場です。

川漁

水が二又に流れる場所の一方を塞ぎ止めて捕る「川の堰干し」、ウナギの寝床に仕掛けを入れて捕る「穴釣り」など、いろいろな捕り方で楽しめます。



せき堰渡り 結構ドキドキ。流されないように！

ホタルが棲む川は、人にとっても優しい川です。



美郷で

泊まる、食べる、体験する。



5月中旬～下旬 茶摘み

高開の石積みで無農薬の安心で美味しいヤブキタ茶を手摘みしましょう。



5月下旬～6月下旬 梅の実収穫

梅農家の方に教わりながら青梅を収穫しましょう。梅酒、シロップ漬けに最適！



6月 ツノ虫捕り

たかゆきお兄さんと一緒に、クワガタを捕まえてみよう！



7月～8月 川あそび

自然を学びながら親子で楽しく川田川を泳ごう！魚釣りもできる！



8月～12月 そばづくり教室

8月下旬種まき、11月下旬そば刈り、12月下旬そば打ちと1年を通してのそばづくり体験。



11月 紅葉エコツアー

秋の草花についての話を聞きながら紅葉に染まった美郷の山を歩きましょう。

自家製野菜を使った
[美郷流マクロビオティック料理]

きのこの里

<http://www.cnet-oe.ne.jp/kinokonosato/>
☎ 0883-43-2370
徳島県吉野川市美郷
字田平199-1



楽しい暮らし体験
美味しい田舎料理

木の夢 ととり

<http://misato-totori.com/>
☎ 0883-43-2373(FAX兼用)
徳島県吉野川市美郷
字田平498



心も体も「あったまる」
とびきりの笑顔でお迎えます

美郷温泉

<http://www.cnet-oe.ne.jp/iiyudana/>
☎ 0883-43-2626
FAX:0883-43-2540
徳島県吉野川市美郷字奥丸75



山野草を使った
老舗旅館の山里料理

蛭の宿 清月旅館

☎ 0883-43-2006
徳島県吉野川市美郷
字宗田320



特産品や特製ランチ
美郷の旬が詰まっています

美郷物産館(みさと屋)

<http://www.tsci.or.jp/misatoya/>
☎ 0883-26-7888
徳島県吉野川市美郷
字峠463-3



昔の日本へタイムスリップする心の旅路
料理の原点への挑戦！

どんぐり家(手打ちそば、季節料理)

<http://www.totodonguriya.com/>
☎ 090-1000-0160
FAX:0884-25-0730
徳島県吉野川市美郷字木屋浦47



…食事 …宿泊 …買物 …温泉

■美郷へのアクセス■

お車で来られる場合

- 徳島自動車道脇町ICから国道192号経由で約20分です。
徳島空港・高松空港からは約1時間です。

徳島空港からJRを使って来られる場合

- JR阿波山川駅下車。JR徳島駅から普通列車で約1時間
です。阿波山川駅から吉野川市代替バスが出ています。

■環境保全体験に関するお問合せ■

美郷商工会

TEL. 0883-43-2505 徳島県吉野川市美郷字峠463-3
<http://ameblo.jp/shokokai-misato/>

美郷物産館 | TEL.0883-26-7888 <http://www.tsci.or.jp/misatoya/>
②美郷の情報を教えてください

